



日本映画学校

第19回 卒業制作上映会

第19期映像科3年 / 第20期俳優科2年

2007年3月2日(金) 3日(土) 4日(日)

会場：スペース FS 汐留 (旧徳間ホール) 東京都港区東新橋 1-1-16 汐留FSビル





日本映画学校の卒業制作

学校長 佐藤忠男

日本映画学校の学生の卒業制作の映画の水準は非常に高いと言えます。自画自賛のようになっておもしろいのですが、卒業制作作品でアート系の映画館でロードショーされたものが少なくありません。ドキュメンタリーの「ファザーレス〜父なき時代」や劇映画の「青-Chong」などです。後者の李相日君などこの一作で力量を認められて直ちにプロの監督になり、最新作「フラガール」の成功につながっています。

韓国映画で最近「ウエディング・キャンペーン」という傑作でデビューしたファン・ビヨングク監督も本校の卒業生ですが、この作品が昨年、アジアフォーカス福岡国際映画祭で公開されたとき、彼の母校での卒業制作作品の「はい毎度！」も上映されました。これがアジアからの留学生としての日本の経験をもとにした作品だったので、おなじようにミャンマー人学生の作品である昨年の「エイン」と二本立てで上映したところ、たいへん好評で、これがかきつけとなって、今年八月一日から十二日まで、福岡市総合図書館で本校卒業制作二十本の連続上映が行われることになりました。普段は内外の名作映画の特集上映を行っていて定評のあるホールなので、学生作品だからといっていい加減な作品は上映

できません。しかし、二十本ならバラエティーに富んだよりすぐりの優れた作品を並べて、一般観客の皆様にも満足していただく自信があります。いやいや、他にもこんないい作品があるのにと残念なくらいです。いい番組ができました。できれば日本じゅう各地で上映したいものです。

なにしろ今、日本映画の製作の現場を支えているのは本校だ、と言ってもいいくらい製作のあらゆる部署に本校卒業生が活躍しています。昨年五月に惜しくもなくなられた今村昌平監督は、その芸術上の成果で大きく讃えられましたが、三十二年前にこの学校の前身横浜放送映画専門学院をつくり、それを今日の日本映画学校にまで大変な苦勞を重ねて育てあげてきた功績もまた、非常に大きいものであります。いま日本映画は産業的にも復興のきざしが語られるようになってきましたが、それを支える力の相当な部分は今村昌平によって育てられた者たちが発揮しています。

その勢いの一端として、今年の卒業制作もどうぞ御覧下さい。



第19期映像科 3年間の足跡

「1年次」 04年度

4月 入学式

クラス分け

オリエンテーション

創作研究・映画史他、基礎授業を受講。

5月 人間研究を6月末まで実施し、大教室で研究発表を行う。

夏休み 長篇脚本を執筆。

9月 映画制作のための基礎授業を受講した後、映画基礎演習に参加。

11月 各クラスとも学生が執筆した脚本で、短編映画の制作に取りかかる。

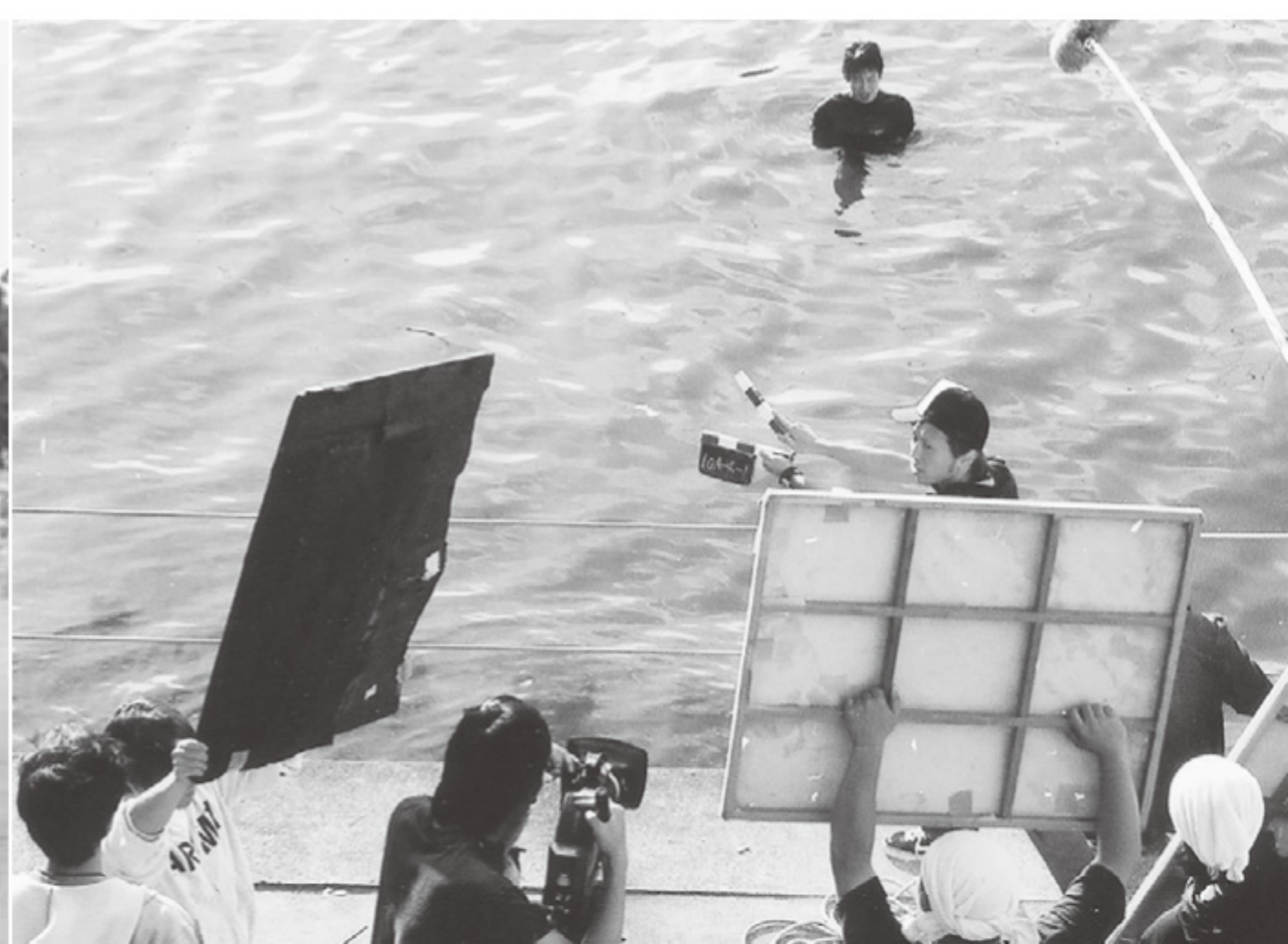
2月 短編映画を完成させて発表会を行い、進級するゼミを決定する。

「2年次」 05年度

4月 新学期を迎え、映画演出コース生は、専門授業の後、ビデオエチュード(Ⅰ)で講師が演出する現場にスタッフとして参加し、スタッフワークを学ぶ。

撮影・照明コース、映像編集コース、音響クリエイターコースの技術三科生は、専門授業の後、技術科合同実習(1000フィート)を実施し、授業で学んだ技術を生かして短編映画の制作を行う。

脚本演出コース生は、専門授業の他、2学期のビデオドラマ実習に備えてビデオ技術と演出の授業を受講。
映像ジャーナルコース生は、専門授業の後、合宿





9月 各ゼミとも実習中心のカリキュラムを実施。映画演出コース生と技術三科生は、合同で短編映画（1500フィート）を制作。

1月 映像ジャーナルコース生は、ビデオドラマを制作。映像ジャーナルコース生は、ドキュメンタリー作品を制作する。

ゼミごとに特色あるカリキュラムを実施。映画演出コース生は、ビデオエチュード（II）で各自がドラマを演出する。

撮影・照明コース生は、ビデオ撮影についての実技授業を受講。

映像編集コース、音響クリエイターコース生は、デジタル技術に関するカリキュラムを受講。

脚本演出コース生は、脚本の専門授業と、3年の卒業制作に向けてのエチュードとして脚本演出演習を実施。

映像ジャーナルコース生は、プロデュース論などの専門授業を受講するとともに、卒業制作の企画を立案する。

「3年次」06年度

4月 各ゼミともに卒業制作の準備に取りかかる。先行して技術三科生が卒業制作を開始。映画演出コース生と技術三科生が合同して卒業制作を開始。

6月 映像ジャーナルコース生も4月からの専門授業を経て、卒業制作に取りかかる。脚本演出コース生は、コンクールに応募するため

の長篇脚本を9月末までに執筆し、10月以降は、技術三科生と合同して卒業制作を開始。

2月 各ゼミ卒業制作作品を完成して、下半期卒業制作発表会発表を学内に手行う。

3月 スペースFS汐留での外部上映会を最後に、同月14日、卒業式を迎える。





親知らず

第19期映像科 技術コース合同A班

(撮影・照明コース + 映像編集コース + 音響クリエイターコース)

卓(21)は母親に連れられて何となく親知らずを抜いてしまった。そんな卓が知るはずもなかった。親知らずの痛みからは誰も逃げ切ることができないことなど…。

16mm / 20分 / ドラマ

〈キャスト〉
尾関伸嗣
細原好雄
川井 満
久保亜津子
梅津ノリジ
穂積由香里
栗田雄司
小方あすか

〈スタッフ〉
統括 萩原憲治
安間 大
内田 圭
川崎瑞也
佐々木弥生
根本剛史
吉田隆人
船橋真由美
久保田貴之
堀越希美恵
伊従恵佑
若松元明
菅沼 薫
沼尾優貴
濱井 江
古谷武久
西條博介
太田泰明
野際 赳
佐々木弥生
船橋真由美
門馬 梓
有田且未
加藤 彩
南谷真知子
有田且未
佐々木弥生
南谷真知子
衣袋・メイク
門馬 梓

入学からの本当に3年間は早い。「光陰矢のごとし」だ。
この学校に入学してから自分がどのような成長したかと聞かれたら何と答えればよいだろう。
人の心を揺さぶる映画を制作する技術を習得したか。実はそんな事ではないように思う。
この学校で3年間学んだ事は、映画、そして人間に真摯に向き合うという事ではないだろうか。その姿勢こそが、本来映画を制作する上で最も必要な事であるように思う。その姿勢を基礎としてこそ、いろいろな技術があるように感じるのだ。
今、卒業に際して思う事は、映画の世界で生きていく事は戦場で生きていくようなものだ、ということである。しかし僕はその世界で生き抜きたいと思う。この学校で学んだ、映画の世界で生きていく為の基礎を自分の武器として。



「僕の一分」

第19期映像科 撮影・照明コース

内田 圭



ナイトスクール

第19期映像科 技術コース合同B班

(撮影・照明コース + 映像編集コース + 音響クリエイターコース)

自分と向き合うことから逃げてきた剛史。

定時制高校での様々な出来事を通して自分を見つめよう

とするが、その学校も定時制統合によってなくなろうとしていた。

16mm / 40分 / ドラマ

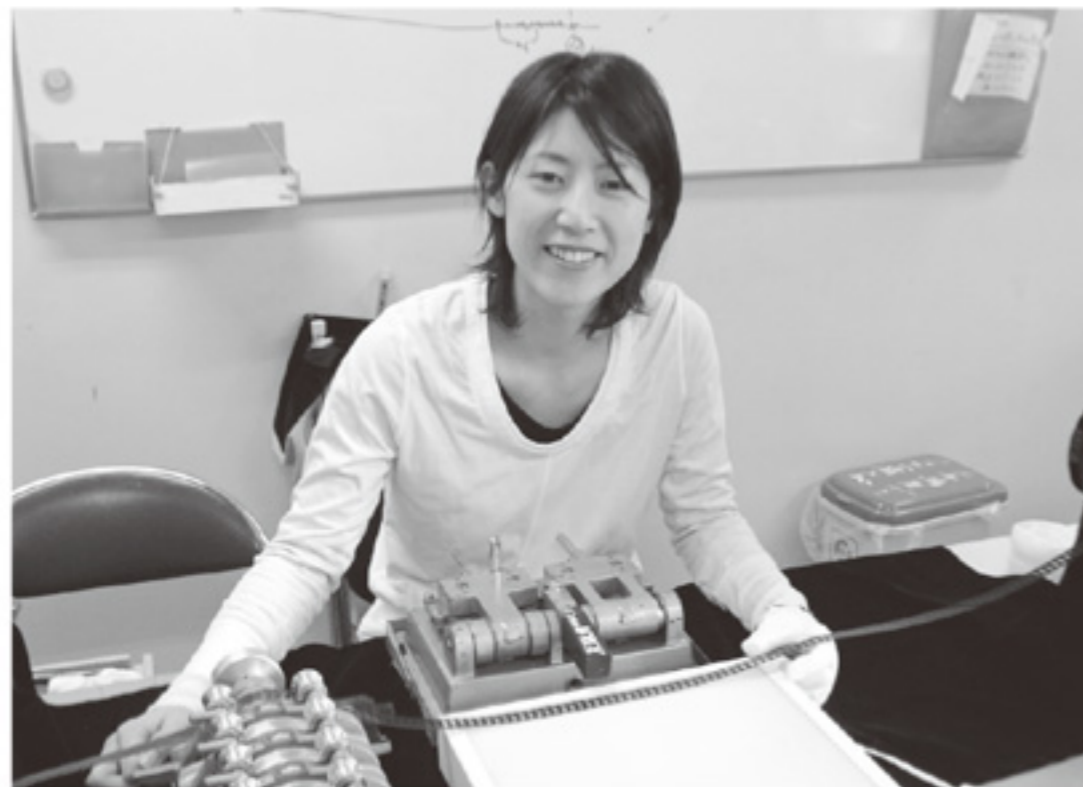
〈キャスト〉
高橋健太
阿部温子
藤枝直之
飯野豊彦
末次浩一
高遠由希
清水英彰
大金賢治
原田圭史
小暮晃子

〈スタッフ〉
統括 寿野俊之
プロデューサー 梅田北斗
副プロデューサー 梶嶋祐介
山口智一 壽崎誠
諸根敦夫 石川俊浩
前田恵利子 平野哲朗
長田青海 野々下将
金子礼 日下恵太
小泊拓也 佐藤光
山田倫大 鈴木義和
北村泰岳 毛井健太郎
堀辺麻衣子 町賢治
石川俊浩 遠藤美香
梶嶋祐介 小林徳行
壽崎誠 諸根敦夫
山口智一 山本彩加
遠藤美香 小林徳行
山本彩加 堀辺麻衣子

私は映画の編集という仕事にやりがいを感じます。なぜなら編集は、私が面白いと感じたところでフィルムをつないでもそれが観客に伝わるとは限らず、主観と客観のバランスをとる行為がとてもスリリングだからです。

卒業制作では大勢で編集したので言い合いになることもありましたが、言葉にできないけど、みんなが納得する瞬間が映画にはあります。カットのつなぎをちょっと変えただけで印象がガラリと変わる経験をどれだけできるのかが、編集技術の差を生むのだと思います。それは実際に体験をしてみないとわからないことです。

映画学校でそんな体験を何度もしました。その経験を活かし、映画の面白さの秘密を探っていきたいです。



「麻衣子の編集体験記」

第19期映像科 映像編集コース
堀辺麻衣子



風にのせて

第19期映像科 技術コース合同C班

(撮影・照明コース + 映像編集コース + 音響クリエイターコース)

高校の音楽科に通うみつる(17)は、突然今まで組んでいた試験のパートナーにコンビを解消されてしまう。困っていたみつるの耳に聞こえてきたのは…。

16mm / 33分 / ドラマ

〈キャスト〉
鳥居紀彦
佐藤美由紀
渡辺 妙
三瓶瑞貴
畠中慶彦
増田翔大
川村麻衣子
大澤拓巳
平井有伽
増田和代
伊藤康隆
真実一路
筑波大学附属高校
演劇部の皆さん

〈スタッフ〉
統括 中山隆匡
監督・脚本 吉川里絵
プロデューサー 松島哲也
副プロデューサー 秀島優里
助監督 堀岡健太
吉田悟至
増田嵩之
阿閉弘和
野本 稔
上川知子
阿閉弘和
秀島優里
菊池さやか
井上奈津子
渡邊広太郎
谷口雄一郎
今村寿志
永井功大
田中星乃
鈴木葉子
佐藤聖子
名久井一允
太田安信
清水さやか
岩永 洋
高 詩燿
野本 稔
阿閉弘和
増田嵩之
吉田悟至
堀岡健太
秀島優里
松島哲也
吉川里絵
中山隆匡
制作 阿閉弘和
撮影 野本 稔
照明 高 詩燿
録音 岩永 洋
編集 清水さやか
衣装・メイク 上川知子
衣裳 上川知子
記 録 本田嵩之
本田嵩之
野本 稔
上川知子
阿閉弘和
秀島優里
菊池さやか
井上奈津子
渡邊広太郎
谷口雄一郎
今村寿志
永井功大
田中星乃
鈴木葉子
佐藤聖子
名久井一允
太田安信
清水さやか
岩永 洋
高 詩燿
野本 稔
阿閉弘和
増田嵩之
吉田悟至
堀岡健太
秀島優里
松島哲也
吉川里絵
中山隆匡

高校を出てすぐ映画学校に入学した。それはただ映画が好きだったから。入学してからは怒涛のように忙しい日々。そこで音響という響きに震えた。普段映画を観ている中で何気なく流れている「音」。撮影した映像に音をどんどん足していく度に映像の見え方が変わっていく。場合によっては自分で音を創り出す。人物の心情を表現できることに驚いた。すべての音を入れミックスして映画は作品としてようやく完成する。映画が完成した瞬間、自分に至福の響きが待っている！
これからも人々の心に響く作品をつくっていききたい。



「心に響くものづくり」

第19期映像科 音響クリエイターコース
吉田悟至



父を追う

演出・技術コース合同 飯島班

アルコール依存症の母と二人暮らしの健志(16)は、ピザ配達のアルバイトをしている。配達先で8年前に出て行った父を偶然見かけた健志は、父を尾行し始める。

16mm / 40分 / ドラマ

〈キャスト〉
兼子 舜
木村 清志
中村 朱實
早川 諒
小館 絵梨
金森 由夫
安岡 理

〈スタッフ〉
統括 緒方 明
脚本 飯島 将史
今川 和広
監督 飯島 将史
プロデューサー 奥 泰典
横井 義人
岡村 拓
小原 由郁
逢坂 元
今川 和広
下地 明文
富永 希望
水崎 亮一
名久井 一允
吉田 隆人
菅沼 薫
久保田 貴之
平野 哲朗
高 詩燿
田中 星乃
山田 倫大
太田 泰明
吉川 里絵
渡邊 広太郎
増田 嵩之
遠藤 美香
野本 稔
本田 落子
加藤 彩
赤嶺 広治
王 岩

学校に入学してまず教えられたのは「好き」と「仕事」は必ずしも両立しないということ。好きなだけではシナリオも書けない。お前らには想像力が足りない」と講師にさんざん言われた。感動を知らない人間が他者を感動させるような映画を作れるだろうか。作れないのである。

映画学校での3年間で、僕はいろんな人に出会った。いろんな物を見た。すべてが新鮮で刺激的だった。それまで無感動な人生を送っていた身体が一変して感動体質になったようだった。

まさしく喜怒哀楽のオンパレード。しかしながら未だに僕には想像力が足りない。もっと感動しなければと思う。さらに知識や経験を蓄えていかなければいけないと思う。だって卒業は、始まりの終わりに過ぎないのだから。



「感動しろ、今川！」

第19期映像科 映画演出コース
今川和広



Sunday

演出・技術コース合同 若林班

建設反対運動の末、大型マンションが建った。
ゲームを欲しがる小学生。反対運動を続ける老人。
建設推進派の市議員とその娘。それぞれの日曜日が始まる。

16mm / 40分 / ドラマ

〈キャスト〉
松浦竜樹
坂野真里
若林由紀子
山口ひろ子
根岸瑞穂
風間夏実
小山修
桜井紀之
馬部健人
奥山信義
小野孝弘
向井章介
稲垣あけみ
上見肇
坂野廉
菊池育美
上村圭将
朝倉佑太
田中琢磨
奥山信義
坂本直季
神本十兵衛

〈スタッフ〉
統括 古厩智之
監督・脚本 若林将平
プロデューサー 尾澤功
佐原賢治
木村明寛
影山祐子
松葉晃平
田辺悠樹
高崎匡彦
福浦竜磨
明田靖代
久保耕平
水津真由美
中田茜
小林徳行
根本剛史
太田安信
若松元明
長田青海
安間大
清水さやか
前田恵利子
小泊拓也
壽崎誠
上川知子
船橋真由美
小林徳行
野際赳
井上奈津子
谷口雄一郎
北村泰岳
鷹尾勇樹

振り返ってみると僕は泣いてばかりいたように思います。辛くなつては泣き、喜んでは泣き、とにかく泣いていました。

入学当初、僕は映画がどのように完成するのか全く知りませんでした。監督がカット割りを考え、役者が動き、撮影・録音・編集をする。「ああ、そうか。映画って理屈でできているな」などと馬鹿な事を思っていました。しかし実習を繰り返す度に涙を流すうちに、何故こうも難しいのか、一人一人が自分の仕事をこなせば完成するなんて生易しいものではないと気付いたのです。

映画は一人では作れないと悩み苦しむ度に辞めてやろうと思いましたが、ただ自分と同じ様に悩んでくれる仲間がいるからこそ映画作りは面白いのでしよう。

三年間、多くの友人や映画に携わる人々に出会い、そして映画の魅力を学んだ素晴らしい日々でした。



「泣き虫賢治の映画修行」

第19期映像科 映画演出コース
佐原賢治



保健

演出・技術コース合同 山梶班

高校生活を保健室で過ごす浩介(17)。友人の慎也(17)その妹、加奈(16)も同じように保健室に登校していた。ある日浩介は、加奈から駆け落ちの相談を受ける。

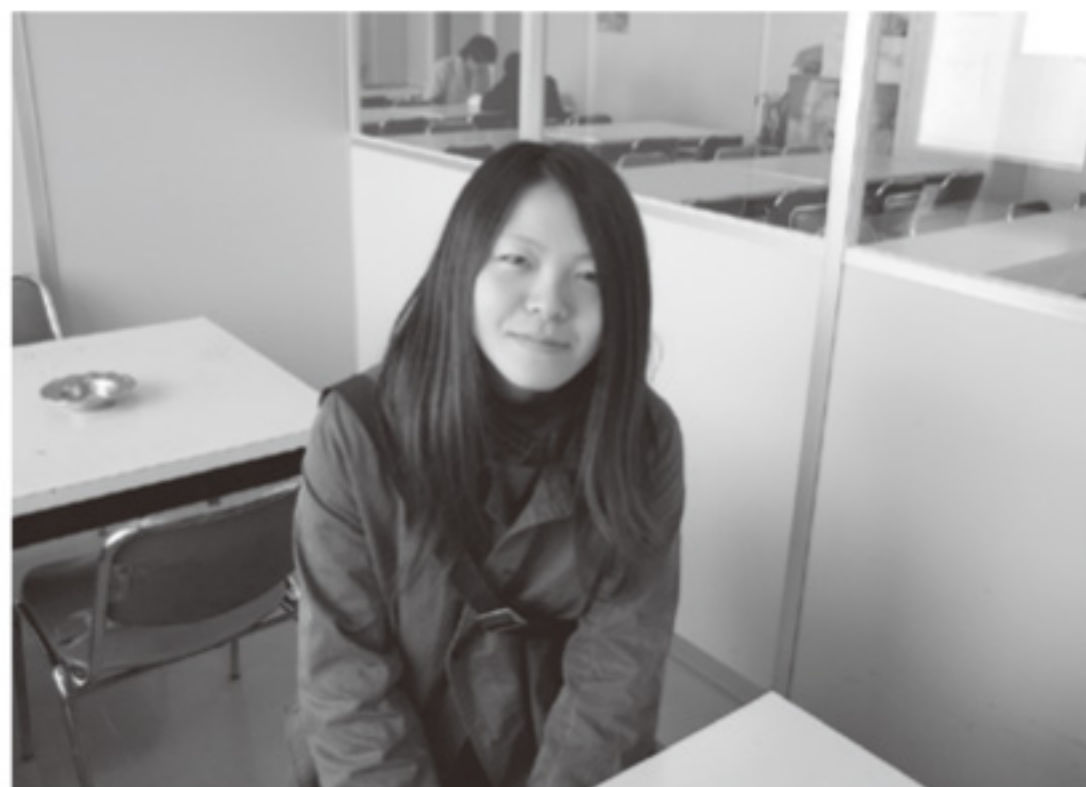
16mm/40分/ドラマ

〈キャスト〉
小笠原翼
山口 衛
上野真未
浅石実希
木下雅之
渡邊ひかる
金子吉延
法月ほなみ
田口佳那子
丸山恵里
横山京依
小沼勇斗

〈スタッフ〉
統括 福岡芳穂
監督・脚本 山梶貴久
プロデューサー 淡河千明
制作 小野雄也
金子英祐
橋本慎也
吉田信一郎
武田春菜
白鳥正伸
浅川勇一
山田晃子
森田博之
内田 圭
佐藤 光
川崎瑞也
沼尾優貴
伊従恵佑
金子 礼
日下恵太
鈴木葉子
菊池さやか
鈴木義和
毛井健太郎
阿閉弘和
椋嶋祐介
堀辺麻衣子
門馬 梓
堀辺麻衣子
スクリーンライター 森田博之
美術 吉田信一郎
山田晃子
金子英祐
衣装 金子英祐

先日、卒業制作を統括して下さった講師陣の授業があった。その中のワンシーンで、自分達の20代について話していた緒方明監督と古厩智之監督が「20代かあ…辛かったな…」と二人揃って頭を抱えてしまったのだ。そんな姿を見てしまったおかげで、小心者のわたしは不安と恐怖でいっぱいである。

今までの三年間よりこれからの三年間のことで頭がいっぱい…と言いつつも、プロの監督二人の生々しいリアルな姿を見て面白れーという気持ちもあるのだった。私の三年間は、恐らくそういう沢山の貴重な、生の体験の繰り返しだったろうと思う。



「生々しい3年間」

第19期映像科 映画演出コース
淡河千明



キャラメルドロップ

演出・技術コース合同 池田班

東京で幼なじみと暮らす一人の女の子。恋愛、仕事、自分を巻き込んでいく様々な変化に耐えられず全てを投げ出し故郷へ。しかし、大好きな故郷でさえも…。

16mm / 40分 / ドラマ

〈キャスト〉
加藤麻奈
向井 聡
坂川ひより
岩田朝日
西野まり
粉名内文治
結木アキラ
海老根寿代
高野栄子
瀬戸勝巳
鷺尾邦光

〈スタッフ〉
統括 長崎俊一
監督・脚本 池田 南
プロデューサー 森井勇佑
ラインプロデューサー 竹田賢弘
後藤広太
寺井祐太
加藤正生
栗山道太
宝池孔輝
田村健太郎
濱井 江
野々下将
佐藤聖子
岩永 洋
南谷真知子
堀越希美恵
古谷武久
永井功大
町 賢治
西條博介
堀岡健太
山本彩加
有田且未
山口智一
岡田貴菜
枝村拓治
有田且未
鷹尾勇樹

夢の世界に足を踏み入れたとき、ぶち当たる現実はとても厳しい。

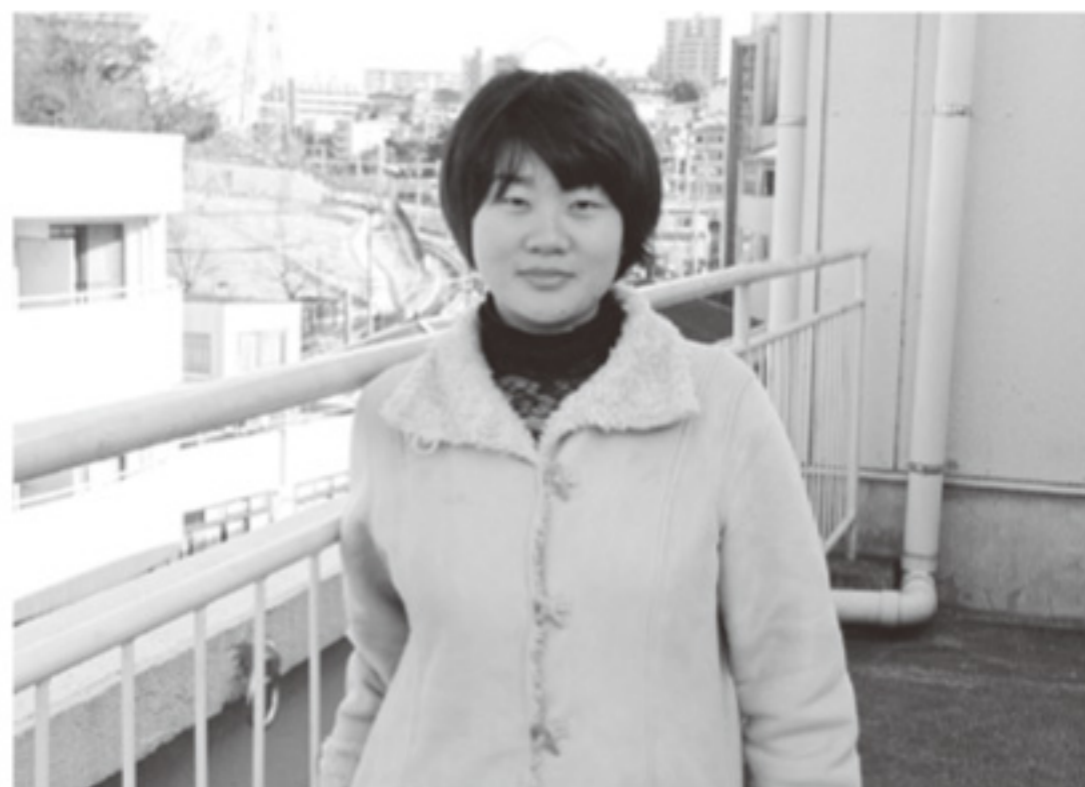
「映画を作りたい」と言う漠然とした大きな夢はキラキラしたものでしかなかった三年前。しかし私は少しずつ知っていく！

つらい。苦しい。映画を作るってこういうことなのか…と。隣の人の才能に嫉妬したり、自分の非力さに惨めになったり、よく泣いた。でも、よく笑った。

私はもうすぐ卒業する。もちろんそれはゴールなどでは無く、これから立つのはスタートラインだ。ここから見える道のりはあの頃みたいにキラキラしているものだけではない。ヒューッ！

だけどこの不安が不思議と心地良い。だって苦しければ苦しいほど、そこで味わう達成感や喜びはとても大きい！ということも知ってしまったからだ。

私の三年間、それは…これからスタートを覚悟するための、とても大事な深呼吸。



「千日の深呼吸」

第19期映像科 映画演出コース
池田 南



青に咲いた日

脚本・技術コース合同

ひとりぼっちのさめた目をした女の子に。しらけてしまった女の子に。よわむしで夢みてばっかの男の子に。いつも口ばっかの男の子に。

VTR / 40分 / ドラマ

〈キャスト〉
安藤サクラ
佐藤貴広
木村真帆
鷹尾あや
猿渡一男
草野康太

〈スタッフ〉
統括 渡辺千明
プロデューサー 萱場ひとみ
松島哲也
加瀬仁美
清水健
田中園子
川崎龍太
上野絵美
小島智大
前納翔太
永井功大
田中星乃
鈴木葉子
小泊拓也
今村寿志
吉田悟至
松島哲也
梅田北斗
石川俊浩
佐々木弥生
諸根敦夫
秀島優里
露木一恵
今井悠太
鷹尾勇樹
上野絵美
露木一恵
加瀬仁美
萱場ひとみ
鷹尾勇樹

「書きたいことのない人間が何を書いても始まらない」

脚本家の馬場さんの誌上の言葉である。何もせず楽をしようとする僕は、脚本ゼミに入れば脚本を書けるようになるもんだと思っていた。勿論それは大きな間違いだった。

自作の脚本を読み返してみると、とつともなくつまらなかつたりする。その理由は馬場さんの言葉に尽きると思う。要は本音を持ってるかいないかの問題だ。書いた脚本を講師や仲間にも読んでもらう時は恥ずかしいし照れてしまう。それがいけない。本音を書いていない人間は理屈で誤魔化してしまう。自分のことなのに自分が何を書きたいのかよく判らない。脚本を思うように書かせてくれない僕。ワガママで、自分勝手に、手のつけられない僕。3年間でそんな自分を発見した僕は、何が書きたいんだと問い続けていきたい。



「そんな自分でええじゃないか！」

第19期映像科 脚本演出コース
川崎龍太



残された青～九百九十九日の青春～

映像ジャーナルコース A 班

祖父は一冊の遺稿集制作に全霊を懸けて死んでいった。
それは祖父と戦死した兄・尚の生きた証。祖父は尚と別れる
間際に一つの約束をしていた。それは兄弟を一生繋げる一言だった…。

VTR / 40 分 / ドキュメンタリー

山口文子 辻政雄 大曾根敏雄 小田桂子 小田和子 小田郁子 小田清子

統括 千葉茂樹
監督 小田総一郎
プロデューサー 田伏雄一
撮影 道譚富美廣 田伏雄一
録音 吉野穰
制作 三好章人

ゆいもの

映像ジャーナルコース B 班

笑う家族。ちよっぴり孤独。死んだ父。黙る母。
止まった兄たち。母になった姉。無邪気な甥っ子。
家を飛び出た私。大嫌いで大好きな人たちへ、末娘の願いごと。

VTR / 45 分 / ドキュメンタリー

中野香 中野サヨ 中野誠 中野美樹 中野実 中野浩 中野勇希 阿部利雄 森元紀子 亀倉雄策 (かめ)

統括 千葉茂樹
演出・撮影・編集 中野香 松本亮介
録音・音楽 渡辺貴大



モノつくる風景

映像ジャーナルコースC班

そこには美術館が建つ。それは義父の夢であり、彼の営みであり、義弟の見つめる先だった。ひとつの風景の中にいる彼らの目は一体何を見ていたのだろうか。

VTR / 45分 / ドキュメンタリー

〈キャスト〉
和田 剛
伊藤 創
和田 小織
伊藤 芳江
伊藤 高義

〈スタッフ〉
統括 千葉茂樹
プロデューサー 吉田新時
監督・撮影 和田 萌
撮影 工藤順子
田代靖行
録音・制作 下村泰弘
編集 星野仁志

映画制作は仲良しこよしでやるわけじゃない。作る過程でみんながぶつかり合い、個人も壁にぶち当たる。その積み重ねで映画が出来る。自己開拓と人間観察の繰り返しによって世界を広くするか狭くするかは結局のところ自分にかかっている。学校に行っているから安心だ、と感じたことは1度もない。受身ではいけないと思った。映画を通じて得たものは膨大で、総合芸術である映画の難しさも痛感した。でも、いつもどんな状況でもハラハラドキドキできたのは、アクの強い講師とアクの強い友達のおかげでもある。自身を奮い立たすことができる。ありがたい出会い。これから先どうするか。遠くにある一筋の光を求めて、自ら薄暗い道を彷徨っていかうと思う。



「肥えてく私」

第19期映像科 映像ジャーナルコース
中野 香





旅立つ君たちへ、贈る言葉
教育局長 千葉茂樹

三年前、本校に入学したばかりの君たちは、ここで発表する十二本の卒業制作作品を予想できただろうか。いずれにせよ、これが君たち一人ひとりの実力であり、青春の結晶なのだ。その結果にもう言い訳はゆるされない。さらに今後の道は、いっそう厳しい。だが、君たちには本校で学び出会った多くの財産がある。

「さあ、これからが本番。荒野に向かってより頼もしく跳び出そう。いつも映画学校は君たちを応援している。」



第20期俳優科 2年間の足跡

「1年次」 05年度

4月

入学式
映画史・演技基礎・ダンスベーシック
ボイストレーニングほか

5月

農村実習（福島県耶麻郡磐梯町の農家に分宿し、
農作業を体験）

6月

ビデオエチュード実習（2年演出ゼミ合同で短編
VTRドラマ制作。キャストとして出演）
指導／緒方明・古厩智之・福岡芳穂ほか

7月

ビデオエチュード上映会

9月

演技実習（ショートパフォーマンス）

10月

ショートパフォーマンス発表会

11月

映画基礎演習（1年映像科と合同でフィルムによる短編映画制作。出演）
指導／藤得悦・花田深・小島康史ほか
アクション・ワークショップ
指導／坂口拓・カラサワイサヲ
映画基礎演習上映会

1月

演技実習（舞台表現）





「2年次」06年度

4月 演技実習学外公演

「岸和田少年愚連隊伝説・ライオンは夢を見る」
(下北沢・駅前劇場において4回上演)
指導／河本瑞貴

5月 漫才実習

指導／内海桂子・楠美津香・大空遊平かほり・笑組ほか

7月 漫才発表会

8月 マセキ芸能社新人ライブ出演(選抜チームのみ)

9月 映像演技実習(卒業制作に向けてのリハーサル・オーディション開始)

指導／富岡忠文・村石直人・加瀬慎一ほか

11月 卒業制作「元気です。」撮影(三浦ふれあいの村に於いて合宿)

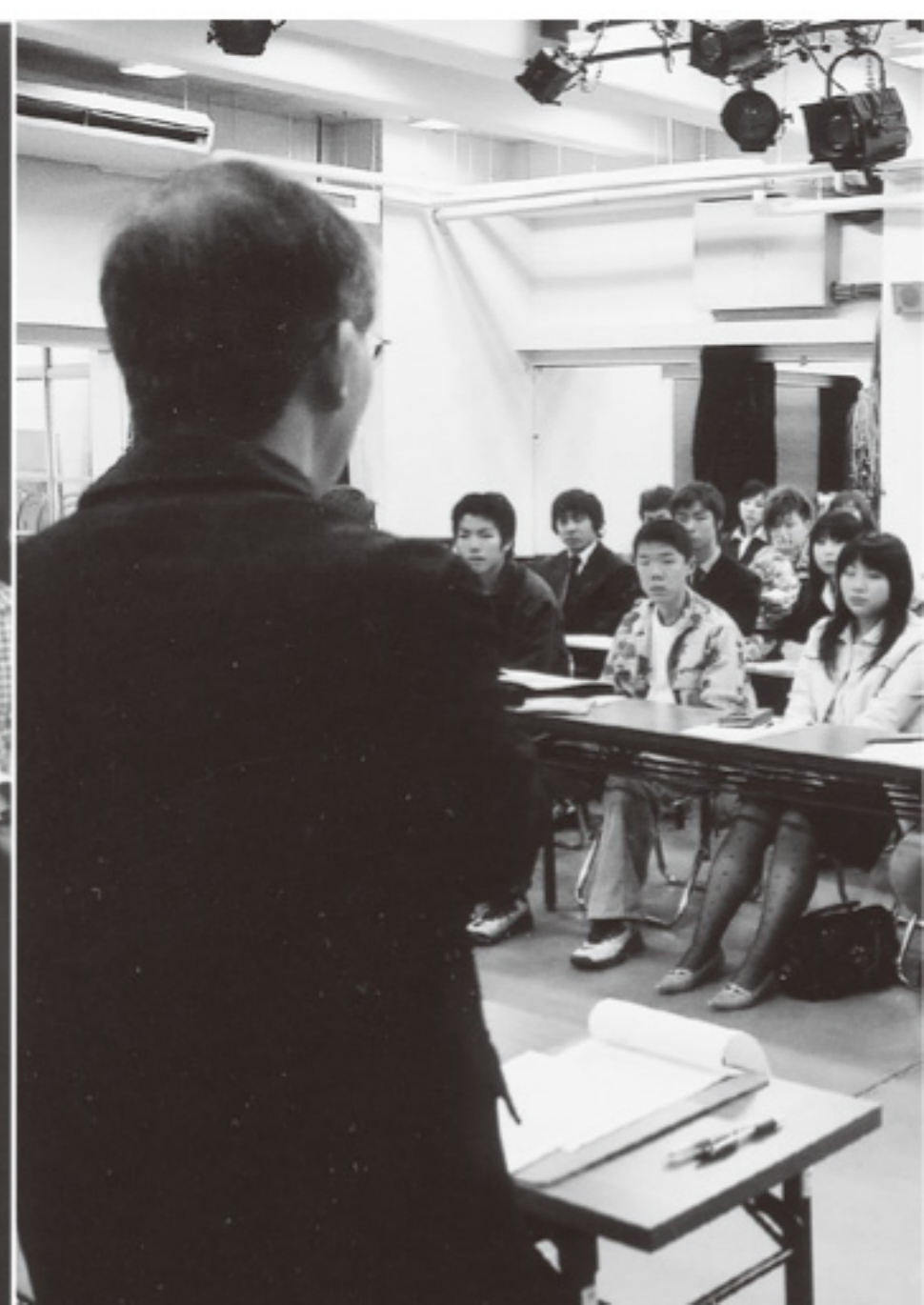
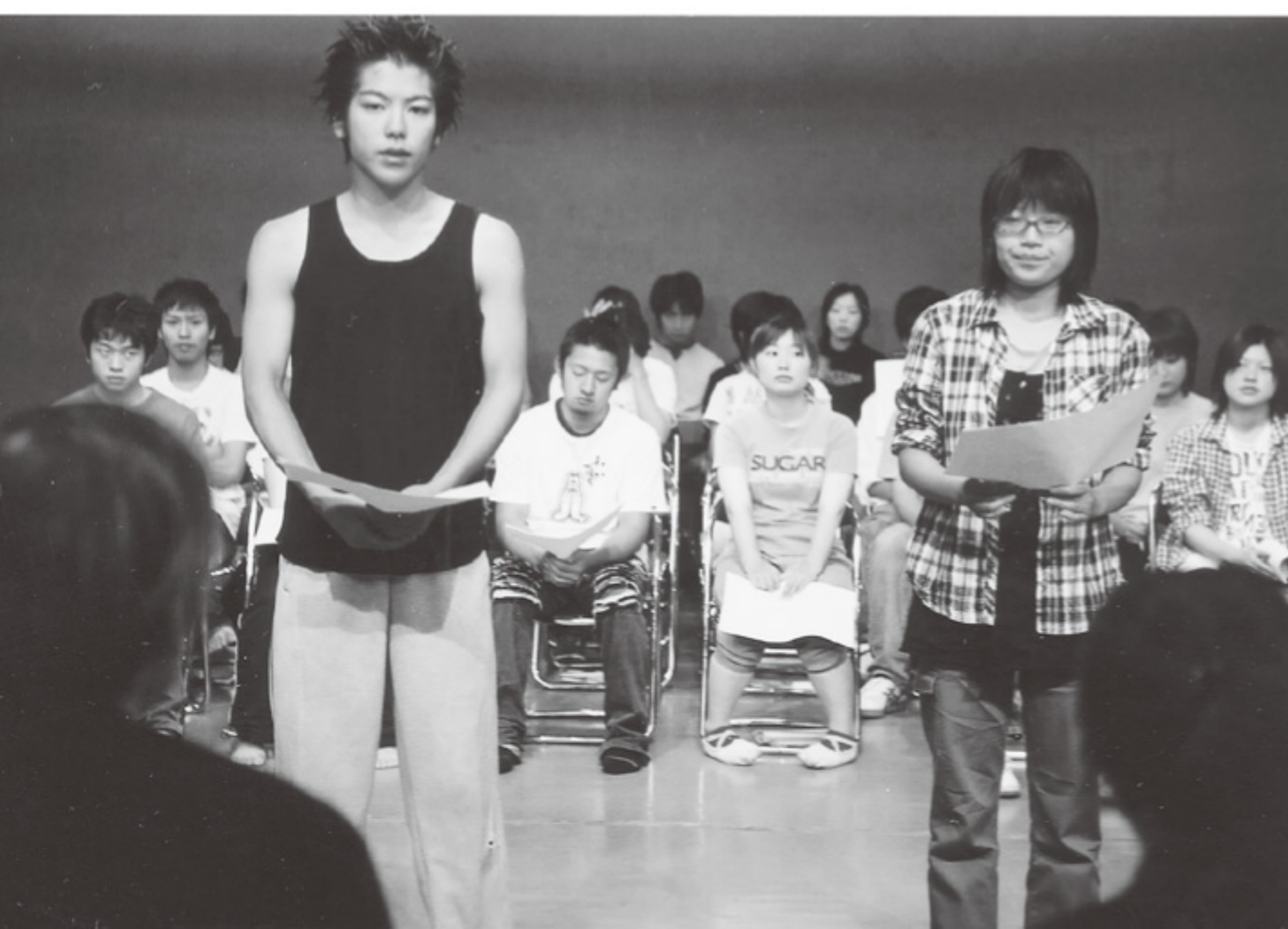
1月 演技実習(卒業ハフオーマンス)

指導／河本瑞貴・田中晶

2月 卒業制作学内上映会

3月 同・学外上映会

演技実習(卒業ハフオーマンス)審査会





俳優科は05年度より、2学年制の専科として再出発しました。「映画学校の俳優科」として、スクリーンで躍動する新時代の演技者を育成しようというのが、その目的です。

今回卒業する20期生は、新しい俳優科のいわば第一期生。しかし、俳優としての技量はもちろん、まず必要とされる「俳優としての意識」がまだまだ決定的に不足。

そんな彼らを、今回の作品づくりを通してどこまで変身させられるのか――。

富岡忠文監督を中心に一年ほど前から準備をすすめ、三浦市はじめ各



卒業制作ドラマの試み 俳優科主任 河本瑞貴

方面のご協力をいただいて、ようやく完成にたどり着きました。ほぼすべての出演者が「学生」であるという特殊な条件下での撮影でしたが、全員野球の熱は、たしかにスクリーンから伝わってきます。『元気です。』は、新たな俳優科の記念すべき第一歩になりました。

実に半年もの間、学生たちと全身全霊でつきあっていただいた富岡忠文監督。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



20期生諸君へ 2年次担任 加瀬慎一

何かに出会った時：感心する事はよく有りますが、感動にはなかなか至りません。

表現に正解は有りませんが、もしあるとすればココにヒントが隠されているかもしれません。優等生になんかなる必要はないのです。

チャームキングな人になって下さい。



元気です。MANZAI DAYS

第20期俳優科 卒業制作作品

お笑い芸人を夢見るビンタとポンタ。路上漫才を始めて5年目だが、売れる気配はない。そこに現れる喪服の女。青春のツボを外しまくる二人に笑いの神は降りてくるのか？

VTR / 66分 / ドラマ

〈キャスト〉

ポンタ	河口 玄
ビンタ	三上大貴
キャンディ鈴木	佐々木海帆
ボッチ荒川	上村圭将
葉月	棚瀬基世
信二	竹邑貴司
美佐子	中野章絵
後藤	柳田龍馬
レイコ	岩上円香
鈴木	紺野雅裕
マリ	三浦美香
太田	山下 純
カメ	池亀未紘
池田	菊池育美
姐さん	佐藤まゆみ
坊主頭	朝倉佑太
チンピラA	松田敏彦
チンピラB	天木佑樹
マツキヨ店員A	鈴木 努
マツキヨ店員B	田中琢磨
タツの娘	篠森香那
ビンゴのタツ	山本隆世
ポンタの父親	河本瑞貴
(俳優科担任)	

〈スタッフ〉

企画・製作	日本映画学校
プロデューサー	河本瑞貴
脚本	加瀬慎一
撮影	橋本浩介
録音	村石直人
編集	丸池嘉人
音楽	菊池純一
殺陣	遠藤浩二
美術	佐藤正行
助監督	田中 晶
監督	田山雅也
制作	太田裕子
	清水健司
	菊池育美
	山崎功順
	石黒晋也
	紺野雅裕
	中野章絵
	森岡秀太
	竹邑貴司
	清野 守
	鈴木 司
	鈴木 努
	天木佑樹
	鈴木 努
	太田裕子
	岩上円香
	佐藤まゆみ
	ロケーションコーディネーター
	熊谷達文
	プロツールス・オペレーター
	村田裕子
	編集助手
	増田嵩之
	携帯ゲーム「トライデント」提供
	(株)プリアンプル
監督	富岡忠文



「元気です。」
監督 富岡忠文

俳優科の卒業制作を舞台から映像に変えるので第一作目の監督を引き受けてほしいと頼まれたのは20期生たちが映画学校に入学したての頃であった。

それから一年と半年後彼らと向かい合うことになる。

期待と不安と探りあいが続まったような、なんとも気持ちの悪い出会い。

脚本読みからリハーサルを重ねていく……いやになった、役者がいない……立尽くして後悔した……なんで、こんな仕事引き受けちゃったんだろう。

少し泣いたらスッキリした。考え方を変えた。

芝居なんか出来なくても、どんなにバカでも、絶対に捨てない。こい

つらが音を上げるまで愛し抜いてやる。勘違いさせてやる。

彼らをたくさん傷つけた、そして、私も……。

互いにもがき苦しみながら「元気です。」が完成した。

神様が用意した「出会い」という楽しさの向こう側に確実に置いてある「別れ」に寂しさを感じた。

私に「寂しい」を与えてくれたお前たちに、怒りと憎しみと嫉妬とコンプレックスをごまかすな！

……愛すること、愛されることは素敵なんだと信じて生きる！

そして誰かに、「今どうしてる?」と聞かれたら、迷わずこう答えてほしい、

「元気です。」と。

第20期俳優科

朝倉佑太

あさくら ゆうた

これからも、さらに成長
していきたいと思えます。



- ①昭和62年2月21日
- ②長野県
- ③陸上・バトミントン
- ④173cm・55kg

- メッセージ
- ①生年月日
 - ②出身地
 - ③特技・趣味
 - ④身長・体重

天木佑樹

あまき ゆつき

素晴らしい日々が
送れますように……



- ①昭和59年11月2日
- ②長野県
- ③ガンダム
- ④170cm・75kg

池亀未紘

いけがめ みひろ

今までやってきたことを
活かせる役者になります。



- ①昭和61年11月14日
- ②東京都
- ③歌・かわいい男を見ること
- ④157cm・秘密kg

岩上円香

いわがみ まどか

バカは飛べ！
飛ばないバカはただのバカ。



- ①昭和62年2月17日
- ②埼玉県
- ③絵を描く・買い物
- ④155cm・49kg

岡本彩香

おかもと あやか

日本文化大好き！
着物姿が似合う華のある女性になるぞ。



- ①昭和61年11月22日
- ②富山県
- ③読書・三味線
- ④154cm・49kg

上村圭将

かみむら けいすけ

辛くとも、楽しい2年間でした。



- ①昭和61年6月11日
- ②埼玉県
- ③陶芸・スノボ
- ④181cm・60kg

河口玄

かわぐち げん

表現とは、恐さと
素晴らしいさが同居していると感じた。



- ①昭和58年11月23日
- ②広島県
- ③ダーツ
- ④170cm・59kg

菊池育美

きくち いくみ

自分に影響を与えてくれる人に
出会えて良かったです。



紺野雅裕

こんの まさひろ

この作品は僕にとって絶対
忘れることはありません。

齋藤晋平

さいとう しんぺい

佐々木海帆

ささき みほ

走りながら考える!!



- ①昭和61年8月31日
- ②長野県
- ③食器やガラス製品を見ること
- ④159cm・46kg



- ①昭和62年3月15日
- ②北海道
- ③モノマネ・ラグビー
- ④173cm・80kg



- ①昭和58年3月22日
- ②三重県
- ③バレーボール・水泳・サーフィン



- ①昭和61年8月31日
- ②神奈川県
- ③ダンス
- ④160cm・50kg

佐藤育道

さとう いくのり

演技を楽しむ!!
人生を楽しむ!!



佐藤まゆみ

さとう まゆみ

もっと好奇心旺盛に楽しんで、
野生的に生きたい。

篠森香那

しのもり かな

幼な心を忘れずに
素敵に年をとっていききたい。



鈴木努

すずき つとむ

2年間学んできたことを
将来に役立てたいです。



- ①昭和61年12月2日
- ②北海道
- ③野球・バレーボール
- ④181cm・75kg



- ①昭和61年6月26日
- ②山形県
- ③祭囃子(笛)・バスケット・歌
- ④160cm・55kg



- ①昭和62年1月5日
- ②愛媛県
- ③声・スポーツ
- ④150cm・43kg



- ①昭和61年8月22日
- ②茨城県
- ③映画鑑賞
- ④171cm・77kg

竹邑貴司

たけむら たかし

一生、芝居を続けていく
決意が固まりました。



田中琢磨

たなか たくま

何を作るにも独りでは何も出来ない。
やっと判りました。

棚瀬基世

たなせ もとよ

「herself」
いつでもノーテンキ♡♡

中野章絵

なかの あきえ

もっと強くなろうと思う。



- ①昭和61年6月30日
- ②福岡県
- ③水泳・声楽
- ④160cm・46kg



- ①昭和62年2月22日
- ②岐阜県
- ③フルーツ・料理 歌を唄うぶらり旅
- ④160cm・42kg



- ①昭和60年3月1日
- ②埼玉県
- ③映画鑑賞・絵を描く事
- ④169cm・80kg



- ①昭和58年3月9日
- ②滋賀県
- ③乗馬
- ④180cm・58kg

野口 航

のぐち わたる

橋本有希

はしもと ゆき

日々一歩！ なりふり構わずに。
感謝経験を武器に!!



松田敏彦

まつだ としひこ

死ぬ瞬間に楽しかった
と思える人生でしたか？

三浦美香

みづら みか

全部が濃かった。
もっと濃くなります！ ありがとうございます!!



- ①昭和61年12月13日
- ②岩手県
- ③殺陣
- ④158cm・44kg



- ①昭和61年5月14日
- ②群馬県
- ③マンガ喫茶
- ④170cm・67kg



- ①昭和61年11月4日
- ②千葉県
- ③観劇
- ④145m・48kg



- ①昭和61年1月31日
- ②静岡県
- ③空手・柔道

三上大貴

みかみ だいき

これから先、情熱を持ち続けてやっけていけたら最高です。



- ①昭和61年12月2日
- ②青森県
- ③琉球空手
- ④178cm・74kg

森 真也

もり しんや

シニールな物言いで、災い転じて笑いと成す生き方を。



- ①昭和60年5月19日
- ②三重県
- ③散策
- ④162cm・52kg

森 陽太

もり ようた

映画学校に居なければ今の自分は無かった。カンシヤ!



- ①昭和61年8月21日
- ②宮城県
- ③喫茶店めぐり
- ④172cm・55kg

安川祐香

やすかわ ゆか

プロとしてプライドを持ち、甘えず、高みを目指します。



- ①昭和61年11月13日
- ②青森県
- ③ハンドスプリング・空
- ④162cm・49kg

柳田龍馬

やなぎだ りょうま

色々な事に気づかせてもらった作品でした。感謝です。



- ①昭和61年4月2日
- ②埼玉県
- ③野球・スキー
- ④175m・70kg

山下 純

やました じゅん

とても勉強になりました。次の作品に生かしたいです。



- ①昭和61年8月1日
- ②神奈川県
- ③ベース
- ④176cm・61kg

横山京依

よこやま ちかえ



- ①昭和61年12月6日
- ②神奈川県
- ③音楽の指揮



協 賛

コダック株式会社 富士フイルム株式会社

制作協力

株式会社 IMAGICA

あつぎフィルム・コミッション	(株)東京テレビセンター
国分中央自治会館	報映産業株式会社
いせやま酒店	神奈川個人タクシー協同組合 清水タクシー
川崎市議会	厚木倉庫株式会社
鶴川厚生病院	中村歯科
前田真代	船橋湯
葛木秀明	平和湯
六本木茂	NK特機
(株)ソニー・コンピューターエンターテイメント	K & L
(株)コナミデジタルエンタテインメント	日本照明
朝日プロセス株式会社	高津装飾美術
(株)シーエフ	横浜市立鶴見工業高等学校
ニッポンレンタカー	神奈川県立麻生総合高等学校
橘リサイクルコミュニティセンター	青戸商店
町田リサイクル文化センター	府川和子
レンタルビデオガリバー	濱崎明寿
秋田良	エクスイード・アルファ
Pickup Art Space	黒沢良事務所
THANK YOU MART	シネオカメラ
リサイクル・ブティックチャオ	(株)三恵レンタ・リース
Hanjiro	芳岡靖枝
KINJI 原宿店	ArsNova
青木慎太郎	筑波大学付属高校
東京児童劇団	川崎市立菅生中学校
BESIDE INC.	足利市教育委員会
ヒラタオフィス	石田美津
ウイントアーツ	足利市研修センター
FUNGO	オフィス童武
劇団ひまわり	スターダストプロモーション
シーグリーン	アクターズ・オフィス
サンミュージックアカデミー	トライストーン・エンタテインメント
弓家保則	イーアンドエー
川崎市橘リサイクルコミュニティセンター	TWO WAY PIZZA 町田店
株式会社大修館書店	フィルムコミッションあしがら

日本基督教団東京都民教会
伊豆箱根鉄道株式会社
東久留米市役所
ホテルSプリ
しながわ水族館
小川智子

< 俳優科 >

マセキ芸能社
ハレルヤ (マセキ芸能社)
土屋良太 杉嶋美智子 (宇宙堂)
永江三千子
山本茉莉
中山隆匡
三浦市 (営業開発課)
三浦ふれあいの村 (横浜 YMCA)
石黒造船
オーシャングローウ鮪卸専門店
神奈川県水産技術センター
神奈川県東部漁港事務所
京浜急行バス
光念寺
岬陽館
産直センター「うらり」
城ヶ島ダイビングセンター
ファッション杉山
太陽堂
辰巳旅館
ちりとてちん
本瑞寺
マツモトキヨシ
三浦海業公社
三浦漁業協同組合
三浦商工会議所
三浦ダイブセンター
横須賀土木事務所
カラオケバンバン
三崎サンロード商店街の皆さま
(株)三恵レンタ・リース

株式会社バンダイナムコゲームス
株式会社ビューティー花壇
WE GO 下北沢店
FLAMINGO 下北沢店
神奈川県立横浜清陵総合高等学校
東京都立北多摩高等学校
木下理三
モボカフェ
中丸豊
白田家の皆さん
長谷川瑞英
エムスリー
関 輝
倉谷家の皆さん
藤野フィルムコミッション
田辺裕崇
JR 松田駅
三田国際ビルディング
小田急バス生田営業所
A to Z
THE GRISSOM GANG
J.CLIP
サラマンドラエンターテイメント
シーアンドティー
apres
ディメンション
M・K arts
サイオンエンターテイメント
仲田美容室
箱根登山バス株式会社
岡部覺治
池谷タカ
岸利治
藪下郁男
松村虎夫
伊藤技建
石川画材
伊藤ゆうじ
水野陶和
水谷諭
竹田邦夫
長久手町のみなさん
ゼロ・ピクチャーズ
鈍牛倶楽部
ZONE
アルファエージェンシー
ワンアップ
湯本真理子





理念

日本映画学校は、
人間の尊厳、公平、自由と個性を尊重する。
個々の人間に相對し、
人間とはかくも汚濁にまみれているものか、
人間とはかくもピュアなるものか、
何とうさんくさいものか、
何と助平なものか、
何と優しいものか、
何と弱々しいものか、
人間とは何と滑稽なものかを真剣に問い、
総じて人間とは何と面白いものかを知って欲しい。
そしてこれを問う己は一体何なのかと反問して欲しい。
個々の人間観察をなし遂げる為に、
この学校はある。

創始者 今村昌平

編集人 芦澤浩明／山崎功順
デザイン 曾根大樹
印刷・製本 曾根印刷
編集・発行 日本映画学校
〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺 1-16-30
TEL:044-951-2511 FAX:044-951-2681
発行日 平成19年3月2日（平成25年改訂）

昔、横浜放送映画専門学院
 今、日本映画学校
 日本一の12作品



	11	12	13	14	15	16	17	18
3.2	父を追う 40min	親知らず 20min	ナイトスクール 40min	保 健 40min	風にのせて 33min	残された青 40min	ゆいもの 45min	青に咲いた日 45min
3.3	元気です。 66min	親知らず 20min	Sunday 40min	ナイトスクール 40min	風にのせて 33min	モノつくる風景 45min	ゆいもの 45min	キャラメルドロップ 40min
3.4	Sunday 40min	キャラメルドロップ 40min	保 健 40min	父を追う 40min	モノつくる風景 45min	青に咲いた日 45min	残された青 40min	元気です。 66min

連日11:00開映／19:00終了予定 各回、関係者による舞台挨拶がございます。